

和英辞書(近代英和辞書、へボン『和英語林集成』)

齊藤秀三郎と『齊藤和英大辞典』

萩原 義雄

はじめに

齊藤秀三郎と『齊藤和英大辞典』のことが記述された資料は意外にも少ない。この辞典が、和英辞典の金字塔と呼称されるにふさわしく、現在『NEW齊藤和英大辞典』(株)システムソフト刊)として、デジタル化がなされている。その電子化についてのコメントは、「英語学、辞典史に名を残す名著(昭和三年、日英社刊)を現代に甦らせるべく、原典に対して旧仮名遣いを新仮名遣いに改める、旧漢字を見直す、見出しにヨミを付与するなどのリニューアルを行い電子辞典化したものである」と記述する。また、実際この辞典を活用した資料は、次にあげる三つである。

①『日本国語大辞典』第二版完成時における次の記事内容

即、開く『日本国語大辞典』／柳瀬尚紀……………12

—おお、使いが来たか。なに小使(そいつかい)な。

齊藤秀三郎『和英大辞典』の「Kozukai(小遣)」に「大遣より小遣」 ↓「おおつかい」と「そいづかい」

「だかさる」「チョビ君、きみね、もう何年の付合いになる？そろそろ抱かさってもいいだろ」

「りんどう【龍胆】」「りゅうたん【龍胆】」の項からも龍胆寺雄が見つからない

②第11回：語学の達人たち(1)孤高のライオン <http://www.jmca.net/bookv/takeshita/ryosyo11.html>

……大村喜吉「齋藤秀三郎Ⅱその生涯と業績」

この日本にもかつては、本国人が舌を巻くほどの英語の天才がいた。その名は、「齋藤秀三郎」。日常書く手紙はすべて英語、酔っ払って帝劇にいき西洋人の芝居を見て、てめい達の英語はなっちゃんないや英語でどなりちらしたという逸話も残っている。

彼の創立した「正則英語学校」は、東京神田錦町にあり旧制高校受験の予備校として全国の秀才が集まった。その全盛期には、生徒数は五〇〇〇人を超え、三階の五〇〇人は入る大教室は人であふれて、雨の日には傘をさして窓の外から授業を聴くものさえたという。

立錫の余地もない大教室に身長一八〇センチを優に超す巨体の齋藤が入ってくると、あたりは水を打ったような静けさがみなぎり、「その講義ときては天下一品、精透精密、字句を説き句法を講じて快刀乱麻を断つとはこのことだただ恍惚と聞き惚れてしまった。……本文を訳す、類例を挙げる、邦語との差異を注意する、…生徒の注意を集めて講義の要点を記憶させ

る技量は敬服のほかはない。」(本書 289〜294頁)というほどの名講義であったらしい。

斎藤は、慶応二年(一八六六)仙台で生まれ、最初に入学した宮城英語学校では外人教師によって主に原書で講義を受け、大学は今の虎ノ門の文部省の所にあった工部大学校(後の東京大学工学部)に入学、これも主に外国人によって講義を受けた。在学中は、図書館の英書を読み尽くして、「大英百科辞典」(全三十五巻)を二度読んだというから並みの常人ではない。

工部大学では、夏目漱石の師でもあるスコットランド人のディクソン(J. M. Dixon)から、英語慣用語句(イデオム)への情熱をかきたてられた。大学卒業間際に今では不明な理由で放校処分になるが、生活のため文法書「スウィントン英文典」を訳した。

彼の英語研究法—IDIOLOGY(組織英語慣用語法学)—は、文法の枠組の中で、日本語と英語の豊富な慣用表現(イデオム=熟語)を比較研究するものであるといつてよいだろう。

彼は、生涯、二〇〇冊以上の著作を残したが、その殆どは英文で書かれ、米国のハーバード大学でも教科書として使われたというからこれも凄い。主な著作を年代順に紹介すると(前の数字は発行年、後の数字はページ数で主に名著普及会の復刻本か原本による)、『

1. English Conversation Grammar. 1893 p. 286
2. Practical English Grammar. 1898-99 (実用英文典) p. 1, 092
3. Advanced English Lessons. 1901-2 p. 1, 051
4. Higher English Lessons. 1902-3 p. 610
5. Monographs on Prepositions. 1904-6 (前置詞大完) p1, 310
6. Class-Books of English Idiomology. 1905-9 p1, 793
7. Studies in English Idioms. 1906-7 p. 1, 298

8. New Higher English Lessons. 1907-8 p. 1, 236
 9. Studies in Radical English Verbs. 1909-11 p. 1, 211
 10. 正則英語学校講義録 1912-3 p. 5, 610
 11. 熟語本位英和中辞典 1915 p. 1, 594
 12. 携帯英和辞典 1922 p. 1, 929
 13. 斎藤和英大辞典 1928 p. 4, 640
 14. 熟語本位英和大辞典(Fまでで未完) 1929
2. 実用英文典は、英語教育界に幅広く浸透し日本の学校文法の基礎を形作ったといわれるほどの名書である。
5. の『前置詞大完』は、英語の前置詞をこれほど精密に体系づけた本は、今もない。この業績によってノーベル賞候補にもおされた傑作である。“To”だけで、二八五ページが費やされている。

10の「講義録」は、正則英語学校の総力をあげて作成されたもので、これ以外は一切、他人の手を借りず、斎藤一人のペン先から生まれたものであって、一〇〇〇ページを超えるものも多く、その超人的精力は並み大抵のものではない。和英大辞典に至っては四、〇〇〇ページを超え、しかも関東大震災のため、初稿を消失し二度書かれたものである。

11. 『熟語本位英和中辞典』は、日本人の英語学習に多大な影響を与え、その豊富な熟語(イデオム)と、こなれた訳語は永らく他の追隨を許さなかった。この辞書の出現以降、色々な名辞書が生まれたが、八十五年を生き抜いて今日まで命脈を保っているものはない。COD(Concise Oxford Dictionary, 初版)とアーネスト・サトウの「英和口語辞典」の影響を受けている(ハ)

とがわかっているが、上記の膨大な自己の著作を基礎とする独自のもの、他の辞書を翻訳した類のものではない。永い生命力の秘密はそこにあるといつてよい。

「フイネガンズ・ウエイク」(ジョイス)の翻訳で知られる「柳瀬尚紀」は、「高校時代、ふとんのなかにもトイレにも持ち込んで読んだ辞書がある。斎藤熟語本位英和中辞典は、私にとって英語の恩師だ。英語はもっぱらこの辞典から学んだ。」と、絶賛している。

13、『和英大辞典』は、実質的には、斎藤の全業績を辞書の形で集大成したもので、日本の和歌・漢詩・俗謡まで、見事に英訳された他に例を見ない個性的なものとなっている。

14、『熟語本位英和大辞典』は、大正四年、これまでの英語研究の集大成、渾身の努力の結晶ともいべき後の『斎藤英和中辞典』全一五九四頁の著作を上梓した。この辞典は、「世の多人数の合作に成る辞書類と異なり、徹頭徹尾、秀三郎一人の手によつて起草せられ、校正せられ、意匠せられた独自の産物」であると云う。斎藤自身、「訳語としての日本語の選択に充分に多くの言葉」を与えたと云うひとつ文例を見てみよう。

◇ When love comes in, good-bye to reason! (恋すれば物のあやめもいづくにか)

斎藤秀三郎は、昭和四年(一九二九)に六十三年の生涯を閉じたが、その生涯を捧げた斎藤組織英語慣用語法学(イデオモロジー)の本格的な体系化・再生化は、今後も大きな課題として残されている。

最後に、著名な音楽家の「斎藤秀雄」は、秀三郎の次男であることを付け加えておきたい。

本書は、昭和三十五年(一九六〇)に、吾妻書房より刊行され永らく愛読されてきたが、最近残念なことに絶版になってしまった。まだ、絶版から間がないので、古書店にあたれば比較的手は容易だと思われる。

(お知らせ)

「斎藤和英大辞典」は幸いな事に、一九九九年九月に、「NEW 斎藤和英大辞典」(¥14,200)・「NEW 斎藤英和对訳表現辞典」(¥7,800)として、日外アソシエーツから、復刻販売されて、今も利用できるようになっていた。「竹下和男・文」

③ 辞書ヲタクへの道 <http://www5a.biglobe.ne.jp/~nanatsu/jisho.htm>

たとえば、彼の『和英大辞典』も有名で、「出来心」の項には、こんな都都逸を英訳してたりします。

「お前一人と／定めて置いて／浮気は其日の／出来心」

で、「家」の項がこんな。

「吉原が明るくなれば家は闇」

自伝も出ているようなので読みたいと思っっているんですが、新刊ではないみたいです。

とにかく、柳瀬尚紀氏の前述書を読んでもみるとその利用状況が具に記述されていますので参考になります。この辞典の面白さがわかります。

④ 斎藤秀三郎『斎藤和英大辞典』名著普及会 一九七九(昭和五四)「昭和三年刊の復刻版」
時間に正確で一秒たりとも無駄にできなかった斎藤秀三郎は、「和英大辞典」を一人で編集、



一九二八（昭和三）、年見出し語五万、例文一二万、四六四〇頁という膨大な辞書を創り上げました。序文に「英和辞典は既存の表現の説明であり既存の表現には限度があるが、和英辞典は新しい表現の創造であるから無限に近い」と無数の中から和英辞典にどの表現を採用するかという難しさを述べています。また、「英米人の文章の引用は、和英辞典にはのせるべきではない」と考える彼は、この辞典に個人の主観、嗜好を取り入れ、和歌、俳句、都々逸、漢詩などの英訳を随所にちりばめており日本語特有の用例をきわめて多く用いています。たとえば、

Au (逢ふ) 「他動」 (人に逢ふ)

to meet (a person) ..to fall in with
(the enemy)

逢うて嬉しや

What a joy it is to meet !

別れの辛さ

How hard is to part !

逢うて別れが

Would that we could ever meet,

無けりゃ好い

Never, never to part !

と英訳された都々逸や

Tobideru (飛び出る) 「自動」

To project; to protrude; to start out

目の玉が飛び出る

The eyes start out of the head.

目の玉が飛び出る様な値段

an exorbitant price

目の玉の飛び出る様な勘定

a bouncing bill

など、日本語を日本語らしい英語に表現した「著作物」となっています。斎藤秀三郎は、英語教育者の生涯をかけて「日本人の英語は日本語化されるべきである。」という理念を貫きこの英和辞典に反映しています。

難しい文法や単語の使用は解りませんが、読んでいて楽しめる辞書です。図書館所蔵の復刻版は一六〇頁と枕本と呼ばれた初版より随分スリムに作られています。是非一度、手にとつて眺めてみてはいかがでしょう。(福岡大学図書一課 仲松奈緒子)

⑤ 関東地方 — 鶴見大学図書館・斎藤文庫 (斎藤秀三郎)

明治・大正期の英語学者・英語教育家の斎藤秀三郎 (1866-1929) の旧蔵書である。和書一三六冊、洋書一八五四冊からなる。斎藤の著した二〇〇冊に及ぶ英語教科書・英語辞書類と、斎藤を含めて「明治英学の三大家」と呼ばれた神田乃武 (1857-1923)、井上十吉 (1862-1929)

の著作が含まれる。

齋藤秀三郎は宮城県に生まれ、宮城英語学校を経て、工部大学校（東京大学工学部の前身）に入り、英国人ジェイムズ・メイン・ディクソン（1856-1933）に英語を学んだ。その後、第二高等学校、岐阜中学校、第一高等学校などで教鞭をとり、一八九六（明治二九）年に東京の神田に正則英語学校を創設し、校長となった。齋藤は自らの英語研究を「慣用語法学」（イデオモロジ）と呼び、1893年『英会話文法』を出版。これを発展させた『実用英文典』（全4巻、1898-1899）は現行の学校英文法の基礎となった。さらに、『熟語本位英和中辞典』（一九一五（大正四））、『齋藤和英大辞典』（一九二八（昭和三））など個性豊かな辞書を刊行し、英学界に多大な影響を与えた。

本文庫は齋藤秀三郎の研究のみならず、近代日本の英学史、英語教育史の研究にとっても貴重な資料である。当時鶴見大学顧問教授であった英文学者の齊藤勇（さいとうたけし）（1887-1982）の斡旋により、鶴見大学が蔵書を所蔵することになった。目録として『齋藤文庫目録：齋藤秀三郎先生旧蔵英語学関係資料目録』（一九八二（昭和五七））が刊行されている。

<http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>

事項：イギリスの英語学、イギリスの言語学・文学、ディクソン、ジェイムズ・メイン、井上十吉、慣用語法学、齊藤勇、齋藤秀三郎、神田乃武、言語学、イギリスの専門分野：言語学

所蔵機関：鶴見大学図書館

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

Tel.: 045-581-1001 Fax: 045-584-8197